

『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』

創刊にあたって

学部長 花村春樹

大学の存在価値は、そこでなされる教育の内容と、そこに職を奉じている教員による学問研究の質によって評価される。教育の内容の如何については、卒業生個々の社会にあつての生き方によって知ることができよう。他方、研究の質については、それぞれの教員が所属する学会で行なう発表の他、大学が刊行する研究紀要に論文審査を経て掲載される論文によって精進の跡を明らかに判断することができよう。したがって、研究紀要の刊行は、大学にとって欠落させえない、生命線である。

本学は、すでに文学部（英米文学科、日本文学科）ならびに短大生活福祉科があつて、「紀要」がすでに36号まで刊行され、また「地域総合文化研究所紀要」の他に各学科毎の学会誌も発刊し、多くの研究が蓄積されていた。

1999年4月に、短大は社会福祉学部へ発展し、二学部を擁する4年制大学として新生した。それを機会に研究論文数が多くなつたこともあり、それぞれの学部で独自に「紀要」を発刊することになった。その手続きと準備に日時を要し、一年遅れで、ここに『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』創刊号（弘前学院大学紀要通巻37号）をようやく発刊することができた。既存の紀要等に本学部専任教員の論文が掲載されていることを、ここに申し添えておく。

いうまでもなく、学術研究には終結ということがない。ここに発表された論文は、次の研究へのプロセスの一部という位置を占めるものである。多くの方々のご鞭撻を頂き、今後継続発行される『研究紀要』に、さらに発展させた研究の成果を発表するよう、教員一同とともに努力する所存である。